

石川県輪島市の災害
復興支援ボランティア

日本庄延工業の 社員2人が参加

日本庄延工業（本社
・滋賀県東近江市、社
長・磯部正信氏）の社
員2人が9日、ボラン
ティア休暇制度（振替
休日取得）を利用して、
石川県輪島市で災害復
興支援ボランティアに
参加した。参加したの
は中川清之氏と廣田卓

真氏。社会貢献活動の
一環だという。

現地は地震発生から
10カ月余が経過。少し
ずつ復旧が進む一方、
被害を受けた多くの家
屋が残されたままにな
っている。さらに、9
月に発生した豪雨災害
の爪痕も色濃く残っ
ている。

一部では、流れ込ん
だ土砂が乾き（粉じん
化）、飛散することに
よる健康被害も出てい

るとのこと。2人は被
災者から「地震の被害
は、屋根瓦と窓ガラス

の一部破損で、住めな
くなるような大きな被
害は受けなかった。た
だ、豪雨災害では、地
震災害よりもひどく、
住めなくなるほどの大
きな被害を受けた」と
の話を聞いたという。

当日は9人のグルー
プで被災された個人宅
に赴き、床下に流れ込
んだ土砂の撤去作業を

かけて着実に撤去作業
を進めていった」（中
川氏）。

災害ボランティアセ
ンターの担当者は、
「輪島市の復興はまだ
まだ程遠く、復旧は道
半ば。引き続き、被災
地への支援をお願いし
たい」と話した。

災害ボランティアセ
ンターの運営は、赤い
羽根共同募金（寄付金
額の3%）や善意の募
金などで運営されてい
ることだった。

「流れ込ん
だ土砂は、
非常に粘着
性が強く粘
土のような
状態。撤去
作業は困難
だったが、
グループ一
人が協力
し、時間を
節約している」（廣田氏）。



ボランティアに参加した廣田氏①と中川氏